

## 国語科

# 興味・関心を高める中学校国語科の授業づくり

## —「向上性」に着目した「読むこと」の授業を通して—

石川 嘉一

### 1 はじめに

平成18年12月に改正された教育基本法、また、平成20年に改訂された学習指導要領総則などにおいて、学力の重要な要素が、

- ①基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- ③学習意欲

であることが示されて久しい<sup>1)</sup>。特に、新しく明確に示されることとなった「学習意欲」について、その育成を目指した取り組みが全国様々に行われている。

本校国語科においても、昨年度から教科の研究テーマを「ことばのおもしろさを感じ、学ぶ楽しさをつくりだす国語科の学習」とし、関心・意欲を高めることに取り組んでいる。今年度は、学習に対する関心・意欲を高めるための切り口として、粘り強く課題に取り組もうとする姿勢である「向上性」に着目し、向上性を高める学習に取り組むこととした。これは、本学校園で実施した関心・意欲に関する調査において、「国語の学習に粘り強く取り組むこと」についての肯定的回答の割合が低かったことを踏まえたものである。そのために、①課題意識をもつ、②自分の考えをもつ、③自分の考えを深める、④自分の学びを見つめ直す、という4点に留意した単元・授業構成を目指している<sup>2)</sup>。

本研究では、中学校国語科「読むこと」の領域において、「向上性」に着目した上で、興味・関心を高め、学習意欲の向上をはかる授業づくりのあり方を明らかにすることを目的とする。

### 2 研究の方法（実践例1）

#### (1) 対象生徒

中学校2年生 40名（1クラス）

#### (2) 単元名

発見する読み2 「事実」から「意見」が生まれる時（「生物が消えていく」高槻成紀 学校図書 中学校国語2）

#### (3) 教材について

本単元は、教科書に掲載されている「生物が消えていく」という説明的文章と、自作資料として配付する、稲作労働時間と米の収穫量のデータを中心として構成されている。前者は、1960年代から始まった「農業基盤整備事業」により、田んぼへの用水路がコンクリート管に変わってしまい、その結果用水路のくぼみに生きていた生物がすみを失ってしまった事実が述べられ、その後筆者の意見（事業の「罪」の部分）が述べられている。どのような事実から意見が組み立てられているかを考えられる教材である。

後者は、それに対し「農業基盤整備事業」の「功」の部分を考える際に必要と考えられるものである。前者と比較することにより、異なる事実をもとにどのような意見が生まれるかを考えさせることのできる教材である。

単元に関する既習事項として、生徒は今年度前期に「発見する読み1」において、文章の中の事実の部分と意見の部分とを区別して読むという学習を行った。生徒の実態であるが、「事実と意見」ということに関しては、定期テストなどで二百字程度の課題作文を出題すると、意見に対する理由付けが少しくずれていたり、最初と最後で一貫した

意見が述べられていなかったりする生徒が見られる。

指導に当たっては、まず教科書の文章を読む過程で、どのような事実からどのような意見を生み出しているかということについて考えさせた。次に、違う見方からのデータを読み取ることで、教科書の意見と比較する視点を与えた。最後に、自分の考えをしっかりとせ、交流させる活動を通して人間と自然の関わりについて深く考えさせた。

#### (4) 目標

- 文章やデータを読み取り、その中から意見が生まれていることを理解しようとするができるようにする。
- 文章やデータを正しく読み取り、そこに表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつことができるようにする。
- 述べられている内容が事実であるか意見であるか、文末表現などに注目して考えることができるようにする。

#### (5) 授業構成（全4時間）

- 第1次 「事実」からどのように「意見」が生まれるのか考えよう …… 1時間
- 第2次 「生物が消えていく」で述べられた意見を読み取ろう …… 1時間
- 第3次 違う立場からデータをもとに意見を生み出そう …… 2時間

#### (6) 授業の実際

<第1次 「事実」からどのように「意見」が生まれるのか考えよう>

まず、事実からどのように意見が生まれるのかを考えることとした。人は事実をとらえるとき、どういった立場でその事実に接するかによって生まれてくる意見も違うということについて確認した。ここでは同じ出来事について伝えた新聞の社説を比較し、それぞれの立場（賛成か反対か）によって意見が違っていることについて考えた。

<第2次 「生物が消えていく」で述べられた意見を読み取ろう>

教科書に載っている「生物が消えていく」の文章を読み、「農業基盤整備事業」について、どういう立場の筆者がどういう意見を述べているのかを読み取った。この文章の筆者は「保全生態学者」という立場であるため、生態系を維持できないような工事については反対の意見を持つことは当然の流れであることを確認した。

次に、なぜ生態系などに悪い影響を与えるこの事業が行われたのか、という問いを立てた。そして、この事業に賛成する人たちがいたからではないか、ではそれはどういった立場の人たちなのかというように、考えを深めていった。最後に、どういった事実があれば意見を支えることができるかについて考えた。

〔生徒の意見〕	
・ どういった立場の人か	農家の人たち、工事関係者、国の役人
・ 賛成意見を支えるために、どういった「事実」が必要か	工事前後の収穫量、効率、工事作業数、インタビュー、工事のメリット

<第3次 違う立場からデータをもとに意見を生み出そう>

第3次では、前次の最後で考えた、必要な事実のうち、農業基盤整備事業が行われる前と後の「稲作労働時間」と「米の収穫量」のデータを生徒に提示した。それをもとに、農業基盤整備事業を行ったことに賛成か反対かの意見を持った。この時点では、賛成6名反対33名であった。以下に理由をまとめた。

賛成（6名）	反対（33名）
・ 労働時間は減らした方がい	・ あまり収穫量に変化がない
・ 収穫量が平均的になり安定している	・ 労働時間の減少は減反など工事以外の原因ではないか

整備事業前		整備事業後	
昭和40	322	昭和48	475
昭和41	286	昭和49	472
昭和42	450	昭和50	375
昭和43	458	昭和51	287
昭和44	343	昭和52	387
昭和45	445	昭和53	422
昭和46	330	昭和54	403
昭和47	520	昭和55	313
平均	394	平均	392

図1 収穫量のデータ (偽)



図2 労働時間のデータ (偽)

しかし、実はここで示したデータは私が作成した全くの偽物であった。意見を反対に誘導するため、あえて変化の少ないものを作成したのである。そのことを生徒に知らせ、本物のデータを提示した。

整備事業前		整備事業後	
昭和40	322	昭和48	475
昭和41	286	昭和49	488
昭和42	450	昭和50	445
昭和43	458	昭和51	287
昭和44	343	昭和52	451
昭和45	445	昭和53	527
昭和46	330	昭和54	490
昭和47	520	昭和55	313
平均	394	平均	435

10%アップ!!

図3 収穫量のデータ (本物)

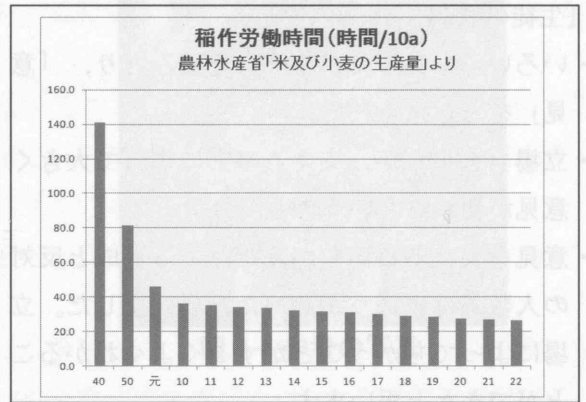


図4 労働時間のデータ (本物)

これらのデータを見て、意見は賛成が32名、反対が7名と逆転現象が起きた。賛成の理由は、労働時間が大幅に減少していることと、収穫量も増加していることであった。反対の理由については、時間の都合で授業中に聞くことは出来なかった。授業後、ノートを見ると、「稲作労働時間が減少しているのは機械化にあると思う。整備前後の収穫量にも同じことが言えると思うのでたいした差はないんじゃないかと思う。また整備事業の代償が大きいので反対」との記述があった。この生徒は日頃から身の回りの生き物や自然に目を向けることが多い生徒である。そのため、他の生徒とは違った「立場」でこの資料を見ていたことが考えられる。この意見を授業中に取り上げることができていたらさらに議論が深まったと思うと残念であった。

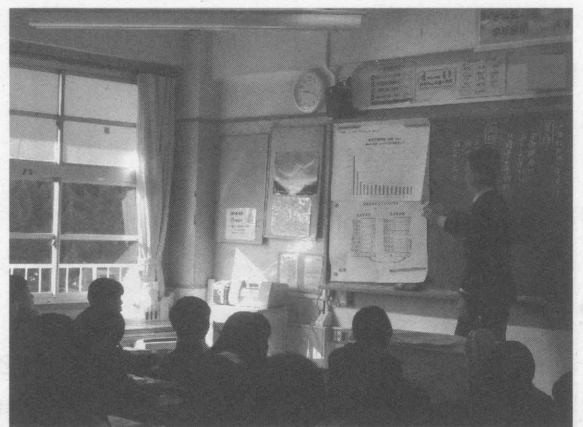


図5 授業風景

〔生徒の感想〕

- ・いろいろな見方で「事実」を読みとり、「意見」をとらえられた。
- ・立場も大事だが、支える事実によって大きく意見が変わるということが分かった。
- ・意見を支える事がちがうだけで、賛成と反対の人数がけっこうかわったと思いました。立場によってちがうことがすごくよくわかることができたと思います。
- ・先生にだまされて相手の立場や意見を考えなくてはならないことがわかった。
- ・「支える事実」が本当に正しいのかどうか考えないと、意見がデータによって真逆になることがあることが分かりました。ニュース、新聞、CMなどを気を付けて見たいです。

(7) 成果と課題 (○は成果を表し、●は課題を表す)

- データの示し方を1回だけでなく2回にしたことにより、さらに深く考えてみようという粘り強さにつなげることができた。
- データが正しいものでないという過程を入れることにより、生徒の興味・関心を高めることができていた。
- 感想にもあるように、意見がどのように生まれるかということよりも、データの読み取り方、つまりメディアリテラシーの問題としてとらえている生徒が多かった。授業の方向性を明確にしておく必要があった。

### 3 研究の方法 (実践例2)

#### (1) 対象生徒

中学校1年生 79名 (2クラス)

#### (2) 単元名

発見する読み1 「述べられていないこと」を見つめる (『ふっくらと』北村薫 学校図書 中学校国語3)

#### (3) 教材について

本単元は、『空を飛ぶ恋—ケータイがつなぐ28

の物語』に収録されている「ふっくらと」の全文をもとに構成されている。ショートショート形式の全10段落、教科書3ページ分の短い小説である。短い文章だからこそ、文章の中で「述べられること」は洗練されて少なくなっており、その分「述べられていないこと」を想像して読み手自身が作品の世界を広げていくことを要求される。この小説は、携帯電話をテーマとして書かれているが、そのテーマのことがどこで「述べられる」のかを意識しながら読むことや、また「北村薫」という名前と文体のみが「述べられている」作者について想像することなども、「述べられていないこと」を見つめることにつながると考えられる。

指導に当たっては、文章中に「述べられていること」をもとに、「述べられていないこと」について考えるという活動を意識させることにより、今後文章を読んでいく際にも生かせるようにしていった。本時の学習では、読み方の一つとして、あらかじめ分かっている情報(本小説では携帯電話に関する話であること)を頭に置いて、それに注目しつつ読み進めていくという方法をとらせた。そこを切り口に、「述べられていること」を拾い上げて文章の流れをまとめさせた。その後、「述べられていないこと」を想像させ、登場人物の心情理解につなげさせた。また、最後に作者である北村薫さんについて、男性か女性かなどを想像させることで作者名も作品世界を想像するときの一つの鍵だということを意識させた。

#### (4) 目標

- 教科書の文章を注意深く読み、述べられていないことを見つめようとするができるようになる。
- 小説を読み、「述べられていること」をもとに「述べられていないこと」について考えることができるようになる。
- 文章に述べられていることを正しく読み取り、それをもとに想像して登場人物の心情を読み取ることができるようにする。
- 文章に述べられている言葉だけでなく、述べられていない言葉を想像して心情を読み取る

ことができるようにする。

(5) 授業構成 (全2時間)

- 第1次 「述べられていないこと」を見つめよう ・・・2時間

(6) 授業の実際

まず、興味を持たせるために、読書をするときに何を基準にして本を選んでいるかを考えさせた。生徒は、「好きな作者」や「他人の評判」などを挙げていた。これらも文章に対してあらかじめ「述べられていること」としてとらえられることを押さえさせた。その後、「述べられていること」として登場人物と、おおまかな人物像をまとめさせた。そして、文章に「述べられていること」をもとに、「述べられていない」登場人物の気持ちを考えさせた。

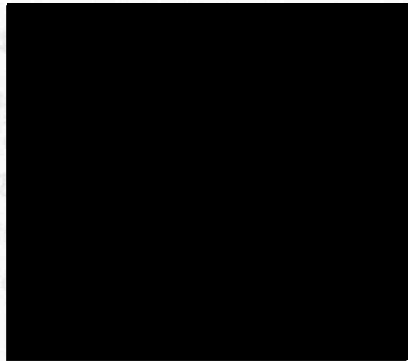


図6 作者の写真

述べられていること	述べられていないこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆で手作りのお菓子を持ち寄ることになったが一人だけ嫌と言えない</li> <li>・父と二人の家が急にさみしくなった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まゆこは気まずい不安困っている他の人はどんなものを持ってくるのかめんどうくさい</li> <li>・静かになって急に違和感があるいつの間に大きくなったのだろう心配</li> </ul>

最後に、文体と「北村薫」という名前から、作者は男性か女性かを考えさせた。生徒は女性だと思ふほうが多かった。作者の写真を示し、作者名も作品世界を想像する一つの鍵であることについて触れた。

〔生徒の感想〕

- ・人が台詞として発した言葉から、どのような気持ちかよみとることができたのでよかったです。きいて、なるほどと思ったところがあったので、次からは自分でみつけていきたいです。
- ・述べられていないことを考えるだけで、ただの一言のセリフでも、重みがあるように感じられました。考えていたことと違うことが出てきた時は、考え直すいいチャンスになって、おもしろかったです。
- ・こんなふうじっくり小説を読みといていくと世界が広がるなと思った。
- ・言葉からでも、みんなそれぞれ読み取り方が違っていろいろな意見があり、おもしろかった。
- ・いつもの自分だけで本を読むときは無意識に少ししか読みとっていなかったけど、意識して読んでより分かりやすくなった。



図7 授業風景

/chukyo0/toushin/\_icsFiles/afieldfile/2009/05/12/1216828\_1.pdf.

- 2) 広島大学附属三原学校園：「国語科教科構想」，平成 26 年度幼小中一貫教育研究会国語科協議会資料，2014.

(7) 成果と課題（○は成果を表し，●は課題を表す）

- 述べられていないことを見つめるという学習を通して，登場人物の心情を考えることなど文章の深い読み取りにつなげることができた。
- 他者との交流を通して自分とは違うものの見方・考え方に触れることができた。
- 本文の中の，どの場面・発言に関して考えていくのかが絞られていなかったため，焦点化した学習活動にすることができなかった。

#### 4 全体の成果と課題

中学校国語科「読むこと」の領域において，「向上性」に着目した上で，興味・関心を高め，学習意欲の向上をはかる授業づくりのあり方を明らかにすることを目的として考察を行ってきた。

実践例 1 において生徒たちは，事実から意見を生み出す過程について学び，その中で，意見を支える事実（データや根拠）の大切さについても考えを深めることができた。また，実はデータが偽物であったということにより，その意外性に対してさらに追究してみようと，興味・関心を持った学習をすることができたと考えている。

また，実践例 2 では，生徒たちは普段何気なく読んでいる小説の一つの発言について，登場人物の心情を深く理解していく過程の中で，その発言の背景を粘り強く探ろうとする向上性が発揮されたと考える。

しかし，それぞれの「成果と課題」の中で触れたように，学習内容の焦点化など今後改善すべき点も残っている。これからもこれらの点を踏まえ，学習意欲を高める授業づくりを推進していきたいと考えている。

#### <引用・参考文献等>

- 1) 中央教育審議会：「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」，2008，  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo)